

# CFP算定結果報告書

RPF



対象期間:2023年4月1日~2024年3月31日

## ① CFP算定の目的

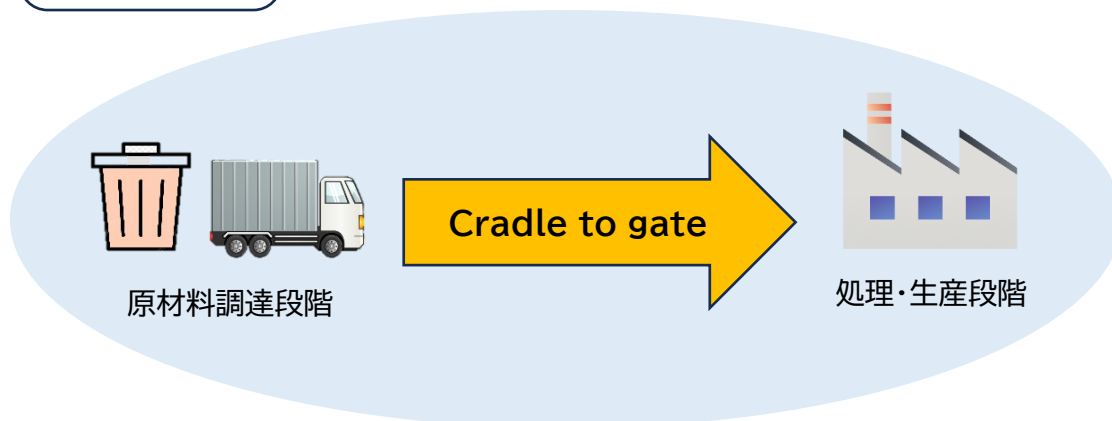
RPFの原料調達から生産に至るまで(Cradle to gate)のライフサイクルを通じたCO<sub>2</sub>排出量である「カーボンフットプリント」を可視化し、将来的な排出量削減の方針の検討及び、需要家に対して、Scope3算定における1次データとして提供し、社会全体のCO<sub>2</sub>削減に貢献することを目的としています。

## ② 製品のライフサイクルと使用したシナリオ

製品種別	「RPF」 産業廃棄物として排出された廃プラスチック類を中心とした可燃物を原料として製造されたリサイクル燃料。
算定単位	tあたりを基本とする。
CFP算定の対象期間	2023年4月～2024年3月
カットオフ基準	<ul style="list-style-type: none"><li>●RPFの原材料となる「産業廃棄物として排出された廃プラスチック類を中心とした可燃物」は、購入したものではなく排出元から処理の依頼を受けた産業廃棄物をリサイクル燃料として活用するものであるため、算定の対象外とする。</li><li>●責任の所在が顧客側にある輸送</li><li>●排出量の影響が小さいもの<ul style="list-style-type: none"><li>・消耗品のCO<sub>2</sub>排出量</li><li>・原材料を調達する際に活用した輸送資材や梱包資材のCO<sub>2</sub>排出量</li></ul></li><li>●対象製品に固有化できないもの<ul style="list-style-type: none"><li>・工場などの建設、処理・生産設備にかかるCO<sub>2</sub>排出量</li><li>・事務部門などの間接部門にかかるCO<sub>2</sub>排出量</li></ul></li><li>●影響が小さいと推定されるが実態の把握が難しいもの<ul style="list-style-type: none"><li>・消耗品を外部から調達する際の輸送段階のCO<sub>2</sub>排出量</li><li>・電力などを使用しない、人力による作業</li></ul></li></ul>

システム境界図  
とライフサイク  
ルフロー

原材料調達から処理・生産に至るまで(Cradle to gate)  
のライフサイクル



### ③ データ情報

データ収集範囲に含まれるプロセス／データ収集項目

#### 原材料の調達段階

##### ●原材料の輸送

・自社輸送

軽油の使用量(実測値)を運送項目の重量ごとに配分

・外注輸送

2次データの原単位から算出した数量を運送項目の重量ごとに配分

##### ●処理・生産段階

・処理、生産設備

電気の使用量(実測値)を各設備ごとに配分

・重機

軽油の使用量(実測値)を生産項目と処理後物項目の重量ごとに配分

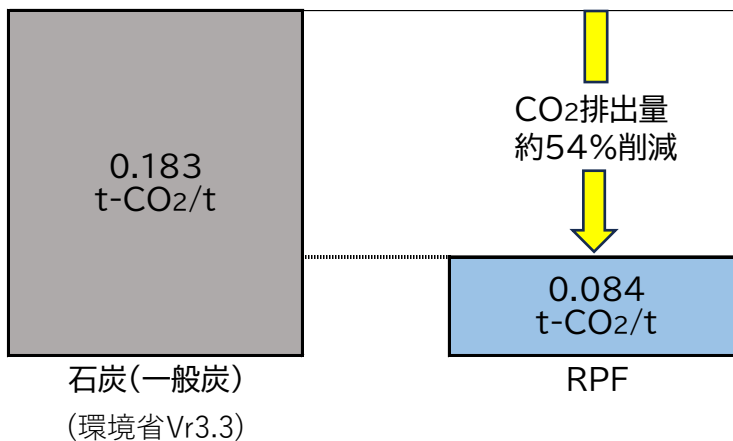
#### ④ 算定結果

RPF CFP	0.084t-CO <sub>2</sub> /t
------------	---------------------------

工程		CO <sub>2</sub> 排出量(t-CO <sub>2</sub> /t)
原料調達段階	輸送	0.0068
処理・生産段階	機械設備	0.0670
	重機	0.0103

#### 「石炭(一般炭)」と「RPF」のCFPの比較

※RPFは主に石炭代替の燃料として利用されるため石炭(一般炭)と比較しています。



#### ⑤ 調査の限界と将来の方向性

- ・製品別算定ルールが存在しないため、CFPガイドラインを参照し、自社の算定ルールに基づき、CFPの算定を行なっています。そのため他社製品と比較はできません。
- ・データ取得が困難な場合として下記のシナリオを設定しています。

外注輸送	1次データの入手が困難であることと、算定のスピードの観点から2次データを使用。
------	---

シナリオの設定による不確実性の部分については、実測値等の正確な情報が入手可能になれば導入を検討していきます。

今後も、継続的にカーボンフットプリントの算定手法を見直すことで、削減効果を反映した算定や実態に即した算定を目指し、結果の正確性をさらに高めていきます。